

教育PRO

(第3種郵便物承認) 平成23年8月16日・23日



粘りの投球を見せる、エースの相原君

陽電池で遊ぼう」や、「マイナス二百度の世界」「電気で動く車の仕組みを知ろう」「百発百中やしの実シミュレーション」など、楽しみながら理科・科学に対する好奇心を持たせる工夫が随所に見られた。

特に圧巻だったのが「水ロケットを作って飛ばそう」。学生などの指導のもと、ペットボトルを利用して参加者が組み立て、隣接する同大学の多摩川グラウンドへ移動して発射台にセットして、三・二・一のカウントダウンで発射。まっすぐ飛ぶもの、横に逸れて飛んで行くものそれぞれだったが、到達高度は約二十m、飛行距離は約百mもあった。発射の瞬間は、



総勢2150名の大応援団

実際のロケットに引けを取らない程の迫力に大歓声が起きていた。

◇ ◆ ◆

東京都大学塩尻高等学校(長野県塩尻市、河西靖男校長)が、第九十三回全国高校野球選手権大会に県代表として初出場を果たし、八月十二日の大会七日目・第一試合目で、明豊(大分)と対戦した。念願叶って、晴れの舞台といふこともあり、大勢の応援団が地元・塩尻市よりバスなどで球場に詰めかけ、一塁側アルプスタンドはライトブルー一色に染められた。中には、関西在住で長野出身の方



終盤に追い上げを見せる塩尻ナイン

も応援に来られ、兵庫県立西宮今津高校の吹奏楽部も協力。熱い声援を送っていた。

試合は、中盤まで先発のエース相原君が持ち前の粘りの投球で明豊打線を抑え、自慢の守備陣もそれに応えていたが、六回裏に明豊打線が襲いかかり、六点を失う。しかし、五点差を追う九回表二死満塁に、久保田君の二塁内野安打で二点を奪い、三点差まで追いつめるが、後続が倒れてゲームセット。三・二・一で敗れた。

初出場の緊張感の中、堂々と戦った選手全員に、温かい拍手が送られ、二〇一一年の夏が終わった。翌日には同校へ戻り、保護者や



初の甲子園で健闘

地元の人が大勢で迎え、盛大な拍手で健闘を讃えた。萩原部長は「勝てませんでしたでしたが、一塁側のライトブルーを見て感動しました。これを機に、新たな挑戦をしていきたいと思う」と話し、新井監督は涙を流していた。選手代表の古谷主将は「今回は勝てなかったが、これをバネに後輩が甲子園での一勝を監督にプレゼントしてくれると信じている」と話し、河西校長は「感動をありがとう。負けたからといって頭を下げる必要はなく、堂々と今回の経験をばねにいろいろなことに取り組んでいてもらいたい」と労いの言葉を送った。



実際に電動カートを運転

(学)五島育英会(安達功理事長)が設置する東京都市大学(東京都世田谷区、中村英夫学長)は八月六日、同大学の世田谷キャンパスにて「第十回 大学で楽しもう! 小学生・中学生のための科学体験



学生の説明に真剣に聞き入る子どもたち

教室」が開催された。

今年には自由参加ではなく、五百名の先着応募制であったが、それでも各教室への整理券を求める参加者で長蛇の列ができ、夏休みの自由研究の参考にと、多くの子ども



保護者も一緒にロケット作り

もたち・保護者でキャンパス内は熱気に包まれていた。

理工系学部を設置する同大学の特性を活かし、学生と教職員が運営。三十八のテーマ別に実験。実際に触れることができるので、子



3・2・1、発射!

どものみならず、保護者も目を白黒させていた。

省エネ・節電・エコなどの要素を含んだテーマもあり、「放射線を測ってみよう」「パソコンを組み立てよう節電アイデア+」太

(学)五島育英会の二校、夏を彩る

東京都市大学が科学体験教室を開催、
塩尻高等学校は甲子園で熱闘!!